

久慈市と岩手大学の 産学官連携について

大学等と市町村との連携事例情報交換会
H19.9.7 盛岡市産学官連携研究センター

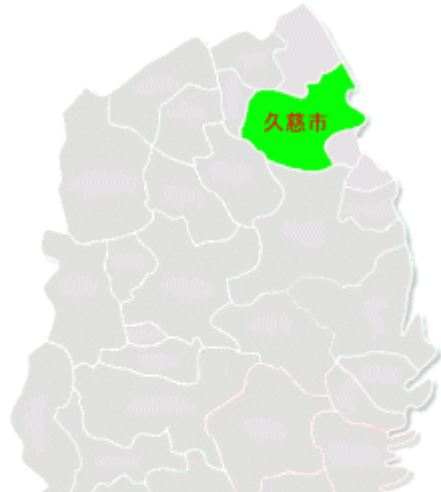
岩手大学地域連携推進センター 共同研究員
(久慈市産業振興部産業振興課主事) 大石 智史

久慈市の概況①

人口 : 39,141人 (H17国勢調査)

市制施行: 平成18年3月6日 (旧久慈市、旧山形村の対等合併により。)

【位置・面積】



東経141度27分～141度52分
北緯40度00分～40度17分
東西35.80キロメートル
南北32.06キロメートル
面積623.14平方キロメートル

【久慈市への交通手段】

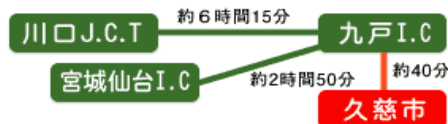
■東北新幹線



■三陸鉄道北リアス線



■お車



■飛行機



久慈市の概況②

北限の海女(素潜りのウニ漁)



久慈市は日本随一の琥珀の産出地



東北地方で唯一開催されている闘牛



久慈市小袖海岸にある景勝地「つりがね洞」



日本一の白樺林

久慈市と岩手大学との連携

久慈市と岩手大学は、相互発展のため、また、学術・教育・文化の分野で援助、協力するため、平成18年2月22日に「相互友好協力協定」を締結しました。

【協力事項】

- 1) 産業振興に向けての支援・協力への対応
- 2) 生涯学習、学校教育における諸課題への対応
- 3) 環境創造に向けての諸課題への対応



岩手大学と久慈市の相互友好協力協定書

岩手大学と久慈市は、相互発展のため、学術、教育、文化の分野で援助、協力するために協定を締結する。

- 1 両者は次の事項について協力する。
 - 1) 産業振興に向けての支援・協力への対応
 - 2) 生涯学習、学校教育における諸課題への対応
 - 3) 環境創造に向けての諸課題への対応
 - 4) その他

協力の形式、協力による成果の利用条件等については、両者間で協議するものとする。

- 2 この協定は、両者の代表が署名した日に発効し、3年間に限り有効とする。ただし、岩手大学又は久慈市からの申し立てがない場合は、3年ごとに自動的に更新される。
本協定は、2通作成され、いずれも正文である。

平成18年 2月22日

平成18年 2月22日

国立大学法人岩手大学長

久慈市長

平山 健一

山内 隆文



共同研究員の派遣

協定締結した内容について具体的に推進していくために、平成18年4月1日付で岩手大学・久慈市の間で共同研究契約を締結。そして、共同研究員として同日より岩手大学地域連携推進センターに勤務し、活動しています。（北上市、奥州市、釜石市、滝沢村に次ぎ、県内自治体から5件目の共同研究員）

【共同研究内容】

○テーマ

「産学官連携による内発型産業振興及び交流促進、海業・山業・里業の振興についての研究」及び「産学官連携による生涯学習・学校教育及び環境創造に向けた諸課題への対応についての研究」

○研究目的・内容

1. 内発型の産業振興を図るため、
 - ・ 地域企業の技術相談や農林水産資源を活用した付加価値商品の開発及びマーケティング
 - ・ 海・山・里の暮らしと地勢を生かした体験交流
 - ・ 林産資源の活用などに関し、「久慈・車座研究会」等を開催して、その可能性を実践的に研究する。
2. 生涯学習・学校教育及び環境創造に向けた諸課題について、小中学生等を対象とした総合的教育への指導など、産学官連携により研究する。

【共同研究員の業務】

- ◆ 企業訪問などによる地元の情報収集
- ◆ 大学、地域、企業の橋渡し（リエゾン業務）
- ◆ 人的ネットワークを構築し、中央、県内からの情報収集
 - ⇒ 産学官連携の現場を実践的に経験することで、コーディネート能力を養成
 - ⇒ 大学が持つ人的・知的財産を活用した新たな事業を創出

久慈・車座研究会

○地域の技術課題などを解決するため、地元企業（団体）・行政・大学がひざを交えて意見交換をする場を設定。

【特徴】

◆現地で開催

- ・遠隔地の久慈市で開催することで相談者の負担を軽減
- ・直接現場を見ることで、具体的な相談が可能

◆無料

- ・相談者から講師謝金、旅費をいただかない⇒共同研究費から支出

◆共同研究員のコーディネート

- ・「相談したいけどきっかけがない」、「誰に話をすればいいかわからない」、「先生からすれば大したことじゃないだろうから、相談しづらい」といった地元の声に対応

- ・「もっと地域に出て岩手のために貢献したい」、「研究成果を地域のために還元したい」といった先生方が地域へ出て行くきっかけづくり

【成果】

◆18年度に5回開催、19年度はこれまでに3回開催。

◆研究会をきっかけに共同研究へ発展した（予定している）例が3件。

久慈・車座研究会の様子



連携事業 紹介①

久慈市・岩手大学地域連携フォーラム



- 【日時】 平成19年1月24日(水) 15:30~17:30
- 【場所】 久慈グランドホテル
- 【趣旨】 「相互友好協力協定」を締結してから約1年が経過し、岩手大学と久慈市とでどのような連携が行われているかを報告するとともに、今後新たな連携がすすむきっかけとするために開催。
- 【内容】
- | | | | |
|---------------------------|-------------|-------|-------|
| ○岩手大学の産学官連携の取組みについて | 地域連携推進センター長 | 千葉 則茂 | 教授 |
| ○岩手大学と久慈市との連携について | 地域連携推進センター | 大石 智史 | 共同研究員 |
| ○「農林水産物の特産品化について」 | 農学部 | 三浦 靖 | 助教授 |
| ○「地域づくりと生活交通の確保について」 | 工学部 | 南 正昭 | 助教授 |
| ○「ものづくりにおける創造性とその考え方について」 | 教育学部 | 田中 隆充 | 助教授 |
- 【参加者数】 約100名



大学生ボランティアと地域との交流

～岩手大学ロボットコンテスト実行委員会・ロボット教室in久慈～

日時：平成19年1月13日（土）10：00～15：30

会場：久慈市文化会館（アンバーホール）



久慈市教育委員会で月1回、市内の小中学生を対象に実施している『週末チャレンジ教室』で実施。岩手大学からは、工学部小山猛先生を中心とした“岩手大学ロボットコンテスト実行委員会”から協力をいただき、オリジナルロボット『おむすび』を製作。

参加した子どもたちは、小学3～6年生の35名。

市内の高校生ボランティア3名も、子どもたちの製作指導に協力。（久慈高2名、久慈東高1名）

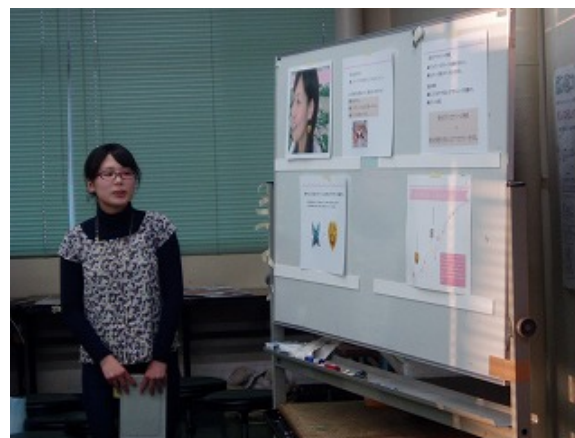
企業と大学の授業との連携

～「琥珀」を題材にして学生が商品や広告のデザインを提案～

教育学部芸術文化課程のH18後期授業（担当教員：田中隆充助教授）にて、久慈琥珀（株）との連携により、学生が「琥珀」をテーマにした商品企画・商品広告等を提案。

昨年11月に琥珀の長所や短所・現在の商品群や購買層などを説明された学生が約2ヶ月かけ提案内容を検討。1月29日（月）に担当者を前にしてプレゼンテーションを開催。

学生からは琥珀を施した下着やマウスなど、「マイナスイオン発生」「癒し効果」などの特性を活かした提案を行った。



岩手大学・久慈市の連携実績（平成18年度）



【教育分野での連携事業】

- 特別支援教育コーディネーターの研修（教育総合実践センター 久慈市教育委員会）
- 社会教育計画等の策定（教育学部 新妻二男助教授 ⇔ 久慈市教育委員会）
 - ◆共同研究により、社会教育計画・生涯学習計画・子どもの読書推進計画を策定
- 社会体育計画の策定（人文社会科学部 浅沼道成助教授 ⇔ 久慈市教育委員会）

【大学生ボランティアと地域との交流事業】（一部再掲）

- ボランティア活動を通じた地域社会との交流支援事業
（岩手大学マンドリン部 ⇔ 久慈市教育委員会）
 - ◆久慈市民芸術文化祭に参加（H18.11.5）
- 地域連携促進事業（岩手大学ロボットコンテスト実行委員会 ⇔ 久慈市教育委員会）
 - ◆小学生向けにロボット製作を指導（H19.1.13）

岩手大学・久慈市の連携実績（平成18年度）



【アドバイザー・講師の派遣】

- バス交通検討委員会（工学部 南正昭助教授 ⇔ 久慈市まちづくり振興課）
 - ◆市内のバス交通のあり方について、専門的な観点からの助言
 - ◆全5回開催、委員会として「バス交通のあり方」を市に答申（H18.12.27）

- 地域づくり実践フォーラム（農学部 広田純一教授 ⇔ NPO法人やませデザイン会議）
 - ◆「地元学」の手法を活かした地域づくりについての助言（H18.7.8）

- 久慈地域食産業ネットワーク企画委員会
（地域連携推進センター 小野寺純治教授⇔ 久慈地方振興局）
 - ◆平成18年11月に設立された「久慈地域食産業ネットワーク」の企画運営

- 久慈市教育振興運動実践交流大会（教育学部 鎌田文聰教授 ⇔ 久慈市教育委員会）
 - ◆「楽しい子育て・子育て・親育ち」について講演（H19.1.28）

- 男女共同参画講演会（教育学部 新妻二男助教授 ⇔ 久慈市まちづくり振興課）
 - ◆「男女がともに輝きこころ豊かなまちづくり」について講演（H19.2.22）

これからの連携

【久慈市をとりまく環境】

○三位一体の改革や地方分権、財政問題の深刻化に留まらず、**雇用環境**や社会資本の整備、少子高齢化社会への対応などますます多様化してきており、従来にもまして「自己決定・自己責任」、「自ら立つ自立・自らを律する自律」が強く求められているところです。

例：久慈地域の有効求人倍率0.47（H19.7 県内0.71 全国1.00）

○この多様化する地域課題に対応するため、本市の持つ「山・里・海」それぞれの魅力を有機的に連結させながら、平成18年度に策定しました「**久慈市総合計画**」に市の将来像として掲げた

「**夢・希望・未来に向かってひと輝くまち**」

を実現するために、市民の皆様とともに地域社会の振興発展に全力を傾注してまいり所存であります。

（2006 久慈市勢要覧より）

【久慈市総合計画（平成18年度策定）】

夢・希望・未来に向かってひと輝くまち

⇒地域資源を生かし、賑わいを創出するまちづくり

⇒商工業等の振興

施策目標：産学官が連携し、優良で豊富な地域の未利用資源を活用した**内発型産業の創出**に努めます。

⇒**内発型産業の創出**

市場の動向を十分見据えながら、未利用の**地域資源を活用しての起業や商品開発等を行う企業家を支援**するため、県や大学、（～中略～）と連携して研究や企業資金への支援を引き続き行うことにより、内発型産業の振興に努めます。

主要事務事業：地域産業振興推進事業（**岩手大学との連携**）



雇用環境の改善のため、地域産業を元気にすることが求められている

これからの連携

内発型産業の創出

商工業を中心に、大学が持つ人的・知的財産を活用した新たな事業を創出

想定される連携先：工学部・農学部

地域資源（山・里・海）を生かし、賑わいを創出するまちづくり

○農林水産業を対象とした調査、研究を進め、内発型産業の誘導 及び 観光資源の特性を生かした交流促進

想定される連携先：全学部

夢・希望・未来に向かってひと輝くまちづくり

久慈市の全体の施策において産学官連携を位置づけ

想定される連携先：全学部（加えて、他大学等との連携）

久慈市と岩手大学の連携を推進するため、

- 地域連携フォーラム開催
- 講演会等への講師派遣
- 教育分野での連携
- 学生と市民との交流

などの事業を展開し市民からの理解を得て、継続した協力関係を構築していく。

ご清聴ありがとうございました。



久慈秋まつりは、9月21日（金）～23日（日）開催です。